未来の博士フェス開催

盛山文科大臣が講話、博士課程学生に熱いメッセージ

――学生によるショートプレゼン、社会課題解決提案グランプリも――

文部科学省は7月10日、都内の学術総合センターで「未来の博士フェス２０２４～博士と創る、博士が輝く社会へ～」を開催した。科学技術振興機構（ＪＳＴ）との共催。

同フェスは博士課程学生を応援するため、企業の協力を得て開催された。当日は学生によるショートプレゼンテーションや、産業界、教育界、官公庁から博士号を持つ人らを招いたパネルディスカッションなどが行われた。

冒頭、主催者を代表して盛山正仁文部科学大臣が30分にもおよぶ講話を行った。法学と商学の２つの博士号を持つ盛山大臣は博士号取得の経緯や経験談を紹介。盛山大臣は旧運輸省の職員だった当時、経済協力開発機構（ＯＥＣＤ、本部：フランス・パリ）へ出向した。その際、まわりは博士もしくは修士がほとんどで、学部卒であった大臣は「大変気後れした」という。

学生らに応援メッセージを送る盛山大臣

その後、神戸大学大学院で法学と商学の博士号を取得。盛山大臣は「『博士は研究者』とのイメージがあるが、博士をとって大学で研究をするだけなのか。博士というのは一つの資格・能力を示す物差し、メルクマールのようなものではないか」と指摘し、「博士はゴールではない。博士になったことでスタートラインに立ったと思ってもらいたい。博士をとって次のステップが始まる」と強調した。

文科省は今年３月、「博士人材活躍プラン～博士をとろう～」を策定した。同プランは社会で活躍する博士人材を２０４０年までに現在の３倍にするとの目標を立てている。盛山大臣は、出席した博士課程学生や企業関係者に対して、「博士が日本の社会を変える。そのムーブメントを一緒に巻き起こしてもらいたい」と呼びかけた。

今回、新たな企画として「社会課題解決提案グランプリ」が行われた。アサヒクオリティーアンドイノベーションズ㈱、楽天グループ㈱の２社からそれぞれ「人生１２０年時代の功罪、健康リテラシーの在り方はどうあるべきか？」「サステナビリティの社会浸透とその加速 サステナブルなアクションを促進するための新しいＡＰＰやサービスを設計」をテーマとする課題が出され、全国各地から集まった博士課程学生で編成されたチームが課題解決に挑んだ。

そのほか、学生によるポスターセッションも行われるなど、博士課程学生が〝主役〟となる一日となった。

博士課程学生によるショートプレゼンテーション。コメンテーターを産業界やアカデミア関係者が務めた

「社会課題解決提案グランプリ」表彰式